

子ども和紙大学おがわ・ひがしちちぶの実践

～伝統技術の継承を目指して～

1 実践のねらい

平成 26 年にユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙手漉き和紙技術を後世に伝えるため、小川町・東秩父村が協力して、小学生同士の交流の中で、知的好奇心を刺激する学びの機会を提供する。

2 事業計画

小川町・東秩父村の社会教育委員が中心となって実行委員会を組織し、和紙の製造過程などについて、子供たちの経験と学びの場になるよう計画する。

月日	講義名【会場】
8 / 2 (水)	講義 1 「和紙の魅力を感じよう」【小川町和紙体験学習センター】
12 / 23 (土)	講義 2 「楮の刈り取りと紙漉きに挑戦！」【東秩父村和紙の里】
1 / 14 (日)	講義 3 「カズむきとカズひきに挑戦！」【小川町和紙体験学習センター】

3 事業内容

(1) 講義内容の充実

昨年度から引き続き、楮刈り・皮むき・和紙漉きなど一連の和紙製作過程の作業を行ったり、和紙を使用した工作を行ったりするなど、体験を通して学んでもらう機会とする。

また、和紙体験学習センターの見学を通じて、和紙の歴史的側面や、手漉き和紙と機械漉き和紙それぞれの違いを学ぶ機会とする。

(2) 学校・自治体を越えた子供同士の交流

異なる学年・学校・自治体のグループを編成し、講義を共に臨んでもらうことで、子供同士の交流の幅を広げる。

(3) 実行委員会の充実

昨年度とは異なる両町村の社会教育委員に実行委員として加わっていただき、会議の中で、新しい視点から事業に対しての意見を出していただく。また、両町村の社会教育委員に子ども大学に協力していただくことを通して、社会教育委員同士の交流につなげる。



和紙の吸水性の実験



紙漉きに挑戦

4 成果と課題

(1) 成果

ア 1 日目の和紙の吸水実験を通じ、手漉き和紙と機械漉き和紙の違いを目で見て学んでもらうことができた。また、ただ講義を受けてもらうだけでなく、実験についての予想や結果の報告をしてもらうことで、小学生同士が話し合う機会が生まれ、その後の小学生同士の交流につながった。

イ 和紙体験学習センターの見学により、細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたという明るい面だけでなく、第 2 次世界大戦中に風船爆弾という武器の材料に使用されたという歴史についても学んでもらう機会となった。

(2) 参加者からの声

ア 小学生の声

「細川紙が水を吸ったあともまた使えるのはすごいと思った。」

「楮を蒸しているとき、甘いにおいがしておいしそうだった。皮をむいたあとの楮のかずから棒で、他の参加者の子とチャンバラをしたり、電車ごっこをしたりして楽しかった。」

「楮を刈り取るとき、先生は簡単そうに切っていたけど、やってみたらすごくかたかった。でも、1 本切れたら、楽しかった。」

「刈り取った 1 本の楮のうちの 4% しか和紙の材料として使えないということがわかったので、貴重なんだと思った。」

「一本の楮から、一つ一つの丁寧な作業で立派な紙を作っていることに気が付いた。これからも和紙の伝統を受け継ぎたい。」

イ 保護者の声

「今回子供一人での参加だったので、親として心配であったが、初めて会う友達とも仲良く交流し、学ぶことができた点に成長を感じた。」

「他の子供の輪に入れるようになり、和紙だけでなく地域の他のことにも興味を持った。」

「学校や町村を越えた交流ができ、他の学校や町村の子供と友達になれて喜んでいる。貴重な体験で、子供だけでなく親も勉強になっている。」

「社会教育委員の方など、たくさんの方に見守ってもらいながら様々な経験ができたのでよかったと思う。」

(3) 課題

ア 参加者が少なかったことが残念である。両町村の学校に依頼をし、参加募集の呼びかけなどを積極的にしてもらえるように働きかけたい。また、1 日目が学校行事と重なっていたため、参加人数に偏りがあった。両町村の学校のスケジュールを確認しておく必要がある。

イ 両町村や学校では、紙漉き体験を社会科見学などで行うが、中間作業を行うことはない。中間作業についても学習プログラムに組み入れたい。

ウ 参加者の作品を公民館等に展示したり、子ども大学の活動写真をホームページに掲載したりするなどして、広報に力を入れていきたい。



魅力ある学習プログラムを終えて